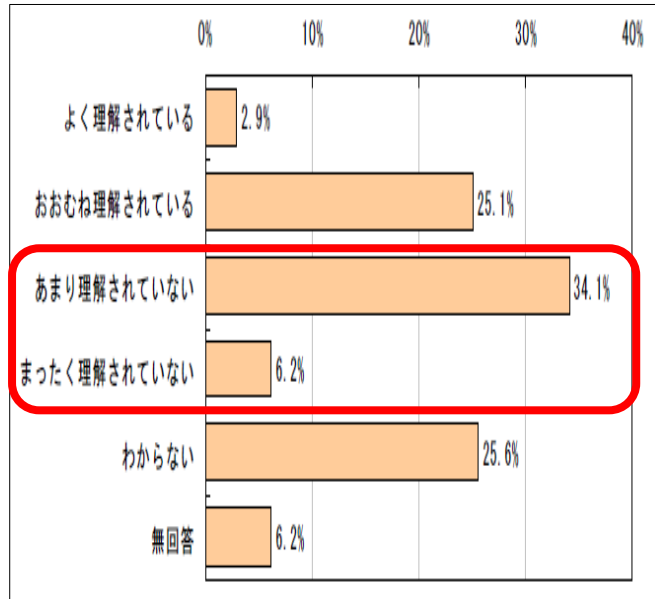
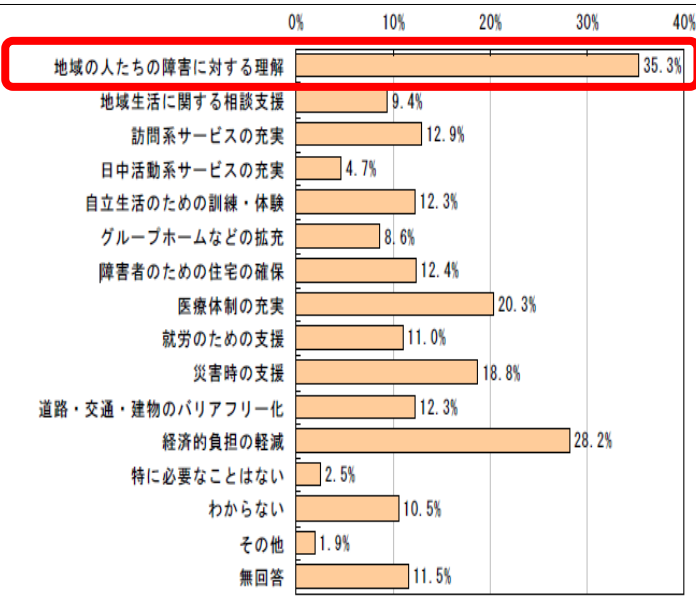


1 障害者理解の現状

(1) 障害のある人に対する市民の理解度



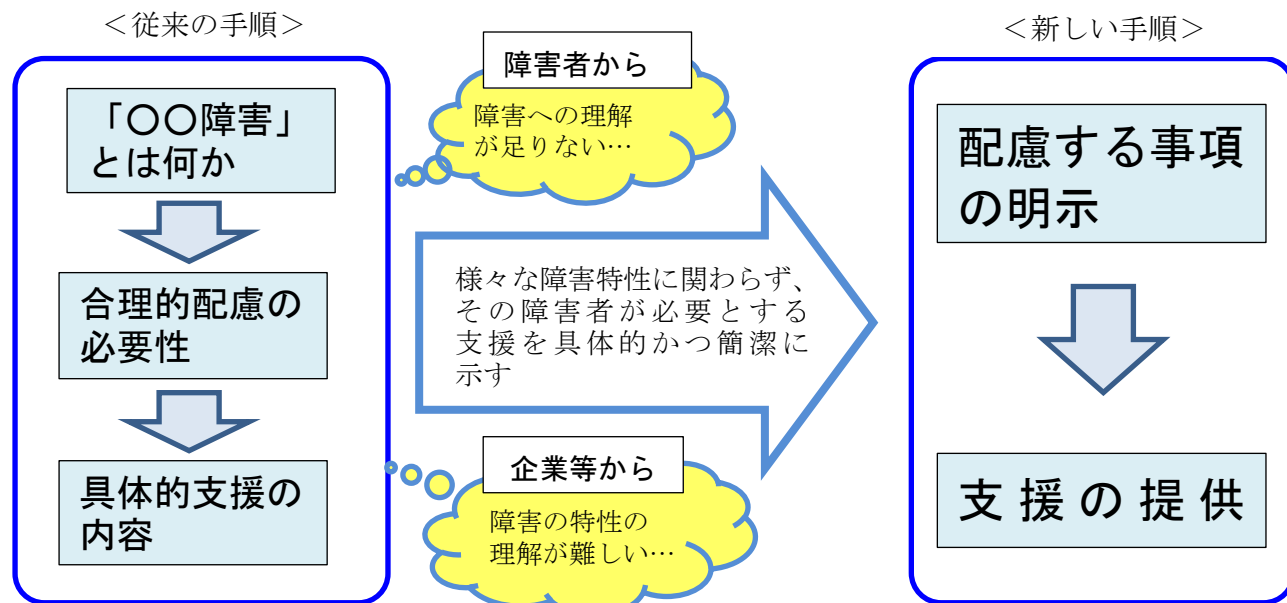
(2) 地域で生活するために必要なこと



平成25年度 障害者生活実態・意向調査（千葉市）
*在宅の18歳以上の障害者

「障害者への理解」は最も大きな課題

2 障害者への理解と支援の課題



合理的配慮に関するコミュニケーションが容易に出来る環境を創出することが重要（支援を通じてこそ理解が深まる）

3 提案

障害者が必要とする支援内容をマーク化

合理的配慮の「見える化」

障害者へのアプローチとして、「何を支援すればいいのかわかる」を明確に伝える「マーク」を示すことで、障害者理解の「壁」を低減する。

<活用例①>
街中でのマークの周知
⇒**外出先での配慮の「見える化」**

<活用例②>
ネームプレートなどへのマークの貼付
⇒**職場等での配慮の「見える化」**

障害者が必要とする支援について九都県市共通の「マーク」を導入し、障害者への支援を容易にするとともに、障害者への理解を促進する。

<参考>

英国での取組事例

- ・全国的な障害者団体がマークを掲載したカードを作成
- ・会員と企業に配付し、円滑な合理的配慮の提供を実践

【効果】

- ・具体的な支援行動にたどり着く時間が短縮
- ・支援にあたって「〇〇障害のある人」として捉える必要がなくなることから、健常者との隔たりが軽減



マーク									
意味	並ぶこと・立つことが困難	車いすで使用できる設備が必要	距離に支障（移動に制限のある方）	緊急にお手洗いが可能な可能性（目に見えない障害のある方）	介助犬が必要	手助けが必要	視覚情報困難	聴覚情報困難	他のニーズがある可能性
とるべき対応	列に並ばせない、座らせる。人ごみから離れた場所を待たせる。	車いす対応設備の使用説明。避難行為の把握。	近道への誘導。必要な距離の説明。	到着時にお手洗いの場所を案内。要望があれば、お手洗いに近い席を検討。	介助犬の入場許可。水皿の用意。介助犬が排泄できる場所の案内。	手助けの提供。自分の介助者の同伴許可。無料の追加チケットを1枚配布。	口頭での情報提供。道やその他の情報を詳細に解説。他の支援についての把握。	視覚的情報の用意。コミュニケーションのため、読唇や筆談の準備。	他にできる支援があるか。ニーズについて把握しておくべきことがあるか確認。

4 共同研究

- (1) 九都県市の取組状況等の調査及び情報共有
- (2) 障害者が必要とする支援内容を表す九都県市共通の「マーク」の検討
- (3) 「マーク」の効果的な利用方法・周知方法の検討